

『経済成長の収束と人的資本の役割に関する実証分析

—東アジア諸国を対象として—

青山学院大学大学院 経済学研究科 公共・地域マネジメント専攻
博士後期課程 佐藤惣哉

要旨

本稿では、東アジアの奇跡後も経済成長を続ける東アジア諸国を対象とし、新古典派経済成長モデルを用いて、経済成長の収束を確認出来るかについて検証を行った。さらに、人的資本の代理変数として教育の質を表す変数を追加し、経済成長における人的資本の役割を経済成長の収束という観点から検証を行った。

本稿で得られた結果は以下の通りである。まず、人的資本の蓄積を考慮しない場合、1995年以降の東アジア諸国においては、1960年代、1970年代でみられた経済成長の発散傾向はみられなかった。次に、人的資本の代理変数として教育水準の相違を考慮しても、経済成長の発散傾向は確認できず、教育水準の相違が経済成長に影響を与えないという結果であった。さらに、政府教育支出を考慮した場合、先行研究では政府教育支出を通じた人的資本の蓄積は東アジア諸国の経済成長の差異を説明する上で極めて有用なものであるとしているが、本稿では政府教育支出は経済成長に影響を与えないという結果が得られた。

これらの結果は、東アジア諸国のうち ASEAN4 諸国のみを対象としても、その傾向は変化しなかった。したがって、東アジア諸国において 1995 年以降、人的資本の蓄積は経済成長に影響を与えないという結論が得られた。

Keywords: 東アジア諸国、ASEAN4 諸国、収束(convergence)、人的資本

JEL classification: O15, O47